



朝九小だより

朝霞市立朝霞第九小学校

令和8年 4月30日 (木)

5月号 児童数 462名

TEL: 048-466-4481



【学校教育目標】

<http://www.asakadai9shou.city-asaka.ed.jp>

「心豊かでたくましい人間の育成」 すすんで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子
【めざす学校像】「元氣なあいさつと明るい笑顔で輝きのある学校」

「なぜだろう？」が学びのはじまり

～「すすんで学ぶ子」を育てるために～

校長 吉澤 めぐみ

入学、進級して1か月がたちました。学校生活にも慣れ、子供たちの表情から新生活への緊張が少し和らいだように感じます。

さて、5月の全校朝会では、『「なぜ」、「どうして」と考えることの大切さ』について話しました。子供たちには「考える」という習慣をぜひ身に付けてほしいです。

○ 「なぜ」「どうして」を大切に

本校の学校目標の一つに「すすんで学ぶ子」があります。現在、教育現場では「主体的・対話的で深い学び」が求められています。その実現には、子供たち自身が「学びたい」と感じる事が何よりも大切です。

例えば算数の授業で、「箱の体積を求めなさい」と問題を提示するよりも、大きさの違う箱を用意して、「どちらがたくさん入るだろう」と問いかけると、子供たちは自然と比べたくなります。さらに、「この箱の中においしいアイスクリームを入れるとしたら、どっちを選ぶ？」といった具体的な場面を設定すると、より一層意欲的に考え始めます。

全校朝会では、「ダンゴムシ」について疑問を子供たちに投げかけました。校庭の花壇などで「ダンゴムシ」をよく見る子供たちは大きく反応しました。「ダンゴムシってどうして丸まるの？」と尋ねると、「敵から身を守るためだよ」といった声子供たちからあがりました。そこからさらに、「何を食べるの？」と投げかけると「枯れ葉」と答えます。「じゃあ、ダンゴムシは水を飲むの？」「ダンゴムシって本当に虫の仲間？」と次々と疑問を広げていきます。「実はダンゴムシってエビの仲間なんですって。」と話す「えー！」という驚きの声。

このように、一つの疑問から考えを広げていくことが、学びの大切な出発点です。子供たちの「なんでだろう」「どうしてだろう」という気づきを大切に、その問いをさらに広げていく関わりを日常の中で積み重ねていくことが、すすんで学ぶ力を育てます。

子供たちは「やらされる学び」よりも、「知りたい」「確かめたい」と思ったときにこそ、真剣に学びに向き合います。本当に調べたいことは、「勉強しなさい」と言われなくても、自ら進んで時間も忘れ取り組むものです。

ご家庭でも、子供たちの何気ない疑問に耳を傾け、「どうしてだろうね」「一緒に調べてみようか」と声をかけていただくことで、学びはさらに広がっていきます。本校でも、こうした気づきや疑問を大切にしながら、「すすんで学ぶ子」の育成に取り組んでまいります。



1年生を迎える会の様子

一年生が元氣な歌声を披露しました。